

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果



作成日 令和5年1月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上一丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	令和4年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年1月18日



【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しく生活する事を大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させて、日々の生活の中で共に楽しみながら入居者様と心の通う介護に努めています。コロナ禍であっても季節を感じて頂ける様、創作物を一緒に作り、季節に合わせた食事を提供しています。また毎月のお便りを通してご家族に施設の様子をお伝えし、面会も感染対策に気を付けて行っています。地域との繋がりを大切にして実習生の受け入れや町内会の方に施設を見学して頂いています。(本年度実施致しました)協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、急変時の対応をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は高台に位置してる為、コロナ禍にあっても外出が難しい状況であるが、海を眺めることもでき朝日がとてもきれに見える環境にある。
- ・家庭的な雰囲気の中で職員は個々の利用者にその日の体調に合わせて活動やケアに関わっている。また、ひな祭りには抹茶を立てて楽しみ、母の日には職員手作りのランチョンマットを贈って満面の笑顔で感謝されている。
- ・ホーム看護師と共に訪問看護ステーションとの24時間連携体制での健康管理で主治医と連携しながら適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・コロナ禍であるが、感染対策を徹底し、専門学校の看護実習生の受け入れや施設見学など受け入れ、地域の一員として交流し、施設周辺散歩時も日常的に挨拶交流している。
- ・毎月の行事を写真撮影し、フロアに年間通して利用者の笑顔など12枚のワンショット写真を展示している。
- ・本部職員や管理者は毎月職員会議で職員の意見や提案を聞き、また、管理者は日々の関わりでも意見を言える環境作りをし意見や提案に対する解決に向けて本部職員のサポート体制がある。職員同士も関係性が良く、意見交換がしやすい環境である。



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を簡条書きにし、目に付きやすい場所に掲げ、意識付けしている。職員は意識して地域の方に挨拶をして関わりを大切にしている。	理念は玄関とフロアに掲示し、各職員のネーム裏に添付し、各自が確認し、目標達成に向けて実践している。各ユニットのカンファレンスや毎月の職員会議で理念を確認、共有し振り返り、利用者への支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	資源回収の協力や運営推進会議の文書報告を配布する際に活動内容を報告している。	町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。挨拶交流や資源回収の協力をしている。専門学校の看護実習生や施設見学等の受け入れを行い、事業所が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	専門学校の職場体験は感染状況を見ながら受け入れを検討し、地域の方やご家族には事業所の内覧を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策のため、引き続き文書配布での報告を2ヶ月おきに実施している。家族には文書や電話等で意見交換を行っている。意見・要望等があれば都度聴き取りをし運営に活かしている。	会議は書面で開催しており、年が明けてからは事業所での開催を再開した。定期的に会議資料を作成し、入居者状況・介護業務・ヒヤリハット・行事・職員研修などの活動を文書で報告している。感染症対策の継続と利用者が楽しみを持てるための取り組みについて考えサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	社会資源の活用や生活保護の受給者の処遇等の相談や対応を行い、事業所の活動報告等で長寿あんしんセンターともつながりを持ち、相談できるような関係づくりに取り組んでいる。	市担当者とは書類手続き、事故報告等で窓口に出向いたり、生活保護担当者の訪問時は利用者の生活状況の確認やホームからは情報提供や相談する等、日頃から連携しながら協力関係を構築している。次年度から介護相談員を受け入れ予定である。市主催のウェブ研修会に参加し、職員に伝達している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的開催している。身体拘束に抵触しそうな行為がないか確認している。身体拘束についての内部研修も職員が研修内容を考えて開催している。	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、具体的な身体拘束・言葉での拘束・虐待防止等の研修を行い、「ちょっと待って」など不適切な声掛けは理由付けの重要性を学んでいる。日中の玄関施錠はせずに見守り支援し、利用者に寄り添い、外出希望の場合は一緒に散歩をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度から虐待防止委員会を設置し定期的開催している。また内部研修の講師を事業所外から招き、研修の質を高め、虐待のない事業所作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後いつでも活用出来るよう研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間を掛けて丁寧に説明を行っている。重要事項説明書や契約書に基づき、事業所の介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針などを詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会やお電話の際に意見や要望をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からはコロナ禍でのガラス越し面会であるが、面談室で意見や要望を聞き、電話でも聞く機会を設けている。毎月、便りで写真と担当者が健康状態や生活状況を一筆書きし郵送している。家族の意見として、ゆっくり面会できる環境を望んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議や各ユニットのカンファレンス時に職員の意見、要望等を話し合っている。また、日々のコミュニケーションを大切にし職員同士が話しやすい職場環境作り、関係作りに努めている。	管理者は毎月職員会議で意見や提案を聞き、各ユニットのカンファレンス、日々の申し送り、関わりの中でも常に「どうですか？」と声かけし意見や提案など言いやすい環境を心がけている。年2回個人面談し個別の相談や目標達成状況など聞いている。職員のストレスを柔軟に対応する事でストレス軽減に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能型ホームの管理者で運営会議を月1回開催している。それを通して代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会やグループホーム連絡協議会の研修や社会福祉協議会主催の研修会に参加出来るようにしている。また、年間学習計画に基づいて内部研修の実施、資格取得も奨励している。昨年から各事業所の管理者が各事業所を訪問し、運営状況を確認する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や医療生協主催の介護交流会や研修に参加し、情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時は、施設見学、面談などを行っている。見学の際にご本人に事業所内覧して頂いて信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族と面談を行っている。要望や悩みを伺うことで生活状況を把握し、グループホームとしてどのような対応が出来るか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時に本人様やご家族の状況を把握し、利用開始までの一連の流れを説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は他の事業所のサービス利用の説明等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだり、お盆拭きや庭掃除などを楽しく自信を持って生活出来る様にひとりひとりに役割を持っていただいている。本人様からの情報だけを引き出すのではなく、職員も人となりを表出して関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等をお伝えし、ご家族にも本人の望む暮らし伺いながら生活を支えていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々への訪問を支援している。施設周囲の散歩をしながら街並みの変化を感じて頂いている。	コロナ禍での面会は短時間のガラス越し面会であるが、顔を見てもらうことを大事にしている。電話やハガキ・手紙の取次ぎ支援や施設周囲の散歩、受診時家族の協力でドライブ支援している。整容では馴染みの訪問理美容師で関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、座席の配置を工夫する事で楽しく生活出来る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や他の事業所に移られた方でもお電話での相談に応じるなど、関係が途切れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な聴き取りや本人の訴えから、要望の把握に努めている。把握が困難な入居者様の場合はご家族からの情報を得て、職員間の話し合いの中で介護に反映させている。	日々の関わりの中で、特に食事やおやつの時、入浴時に思いや意向など聞くこの気付きを職員間で話し合ったり、家族に相談しながら本人の思いに添ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人様やご家族との面談で把握するようにしている。できるだけ本人様が生活されていた場所へ出向いて生活されていた環境を見るようにしている。入居後は日常の会話やご家族の面会時にお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを把握出来る様に職員全員で取り組み、日々の言動・行動や表情からの気付きを大切にしている。入居者の出来ることを見出し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段の生活の中での意思や思いを傾聴し介護計画に反映させている。本人様の生活に対する意向を伺い、カンファレンスでさらに検討し介護計画を作成している。	本人や家族の思いや希望を聞き、主治医・訪問看護師・職員の意見をもとにカンファレンスで検討し介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎で見直しもしている。新規入居者の場合は3ヶ月でモニタリングを行い、状況変化時、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄などを把握している。また、行動や言動にも着目しながら記録に残し情報共有を図っている。それらをカンファレンスで見直し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	諸手続きの代行や、ご家族が同行出来ない時の受診の付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の文書報告を行う際に町内区長や民生委員、長寿あんしん相談センター職員に、地域の情報や助言をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身の状態に変化があった時はかかりつけ医に相談し、ご家族や入居者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更をする場合は、前主治医からの情報提供や同意を得て変更を行っている。また、利用者の健康状態をかかりつけ医と事業所が連絡・相談出来る環境作りに努めている。	入居時に希望するかかりつけ医について説明し、協力医療機関が主治医となっている。月1回の訪問診療と毎週ホームナースと訪問看護師が分担し健康管理を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。必要時歯科医の往診で口腔ケアに努め、他科受診は基本は家族同伴であるが職員が同伴支援し、家族に電話報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は生活の中で気付いた変化を訪問看護師やホーム看護師に伝え相談している。入居者ひとりひとりが適切な受診や看護を受けられるよう支援している。ホーム看護師はカンファレンスにも出席している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医・看護職員・ご家族との連携を密に取り対応している。管理者や職員が面会に行き、入院中も利用者が安心感を持ち、早期に退院出来るよう支援している。退院前はカンファレンスに参加し、退院後も安心して生活出来るようケアについて助言を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に付いての家族の意向を伺っている。また主治医に相談しながら、看取りに入る前の段階で病状説明を受けられる機会を作っている。職員間で本人・家族の意向を共有しながら看取りを行っている。	契約入居時にマニュアルに基づき説明し同意書を貰っている。状態変化や重度化した場合、主治医から家族に説明している。管理者又はケアマネージャーも同席し、家族の意思確認後方向性を共有し、看取りケア時も主治医、訪問看護師と24時間医療連携体制で家族と共に看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で緊急時の対応方法や看取りの研修を行っている。対処方法や連絡先を分かりやすい場所に掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難経路の確認・避難誘導の方法、消火器の取扱い・通報訓練等を実施している。また、自主訓練も実施している。避難経路や手順を掲示し、災害に備えた非常食も備蓄している。地域の協力体制については運営推進会議の書面報告の際に町内区長や民生委員に協力をお願いしている。法人与共同でBCPを作成し職員への周知を図っている。	年2回防災訓練を実施している。消防署立会で通報訓練、駐車場への避難誘導訓練、消火訓練を実施し、自主訓練は消防設備会社立会で実施している。防災設備点検も業者依頼で年2回実施し火災危険箇所のコンセント清掃、燃えやすい物を近くに置かない等の点検をしている。法人与共同で作成したBCPを職員に回覧し共有を図っている。備蓄は水・ご飯・味噌汁・缶詰・インスタントラーメン・乾パン等、3日分と各ユニットにカセットコンロを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で言葉使い・態度・身だしなみに重点をおいて学習し実践している。個人情報の取り扱いについては内部研修等で個人情報保護について学び、個人情報の保護の徹底に努めている。	人権や個性・言葉遣い・態度・身だしなみ等の接遇マナーについての研修や個人情報保護について学び、排泄時や入浴時は大きな声での声掛けはしない、タオルを掛ける等の羞恥心に配慮し利用者に応じた対応をしている。利用者には苗字で声かけ、衣類選びも自分でできるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活場面において、今どこで過ごしたいのか確認をしてから誘導している。誕生日にはリクエストされたメニューにするなど入居者の希望を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるが、あくまで目安としひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって食事時間や入浴など可能な限り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現が出来る様に支援している。必要に応じ声かけをして身だしなみを整えている。訪問理美容の際は、出来るだけ本人から希望を聞きながらカットやパーマをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛付けや下膳、食器洗いやお盆拭きなどをしていただいている。献立を作る際は、食べたい物がないか伺い、食欲をそそるような声掛けや盛り付け、雰囲気作りに努めている。	献立は職員が利用者の好みを取り入れて作成し、食形態も刻み・普通食・ミキサー食で提供し、音楽を聴きながら楽しく食べれる環境作りをしている。行事や誕生日には好きな料理と手作りケーキでお祝いし楽しみとなっている。家族の協力で竹筒を準備しそ〜めん流しをしたり、個々に応じて食器洗いやお盆拭きなど一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受け、バランスの取れた献立を作成し提供している。水分や食事の摂取量をチェック表にして職員が把握出来る様にしている。水分摂取量の少ない入居者には個別に好きな飲み物を提供している。本人様の状態に適したコップや器で摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の保清に努めている。歯磨きやうがいが困難な入居者には口腔ケア用のウェットティッシュで清拭している。必要に応じて歯科受診を検討し、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの回数の少ない方にはお茶や入浴前などにトイレに誘導し、排泄の機会を作るよう努めた。	介護記録で時間帯や量・便の硬さ等、排泄状態を把握し日中のトイレ排泄支援をしている。排泄用品は利用者に応じて対応している。足浴支援により排泄動作がスムーズとなり尿失禁が減少している事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療職と排便状況を確認し、運動や乳製品などで便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の拒否がある場合は本人の意向を尊重し、日程を調整するなど、希望に沿った支援を実践している。	基本的に週2回午前中の支援で希望に応じて湯温の調整、同性介助で対応している。ジェットバスは利用者の希望で作動させ楽しめる支援をしている。入浴剤を使用することもある。入浴拒否がある場合は、声掛けの工夫や時間をずらしたり日程を変更して支援し、全身清拭の場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をしたり、休む前はパジャマに着替えていただくことで気持ちよく眠れるよう支援している。個々に応じた居室の明かりや環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服薬の内容を把握出来る様に専用のファイルを作成し、薬の説明書を整理している。与薬時は必ず職員2人で名前の確認を行い直接手渡し、本人の前で名前と日付を確認している。毎食ごとに服薬内容を記載したカードを作成し、随時確認出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた創作活動や家事支援など、多岐に渡る支援が来ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設周辺の散歩を日課にしています。ご家族と病院受診の帰りにドライブをするなどコロナ禍においても外出の機会を保っています。	天気の良い日は施設周辺の散歩で外気浴をしたり、医療機関受診時家族の協力で個別のドライブ支援をしている。敷地内の桜の満開時は弁当を作り花見を楽しんだり、母の日には職員手作りのランチョンマットを贈り抹茶を立て楽しむ等、コロナ禍であっても利用者に喜んでもらえる支援を工夫して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしており、必要時にはご家族の承諾を頂いて物品等購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で交流が図れる様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃の徹底、空調や換気に気を付けると共に、毎月季節に合わせた貼り絵を作成し、季節の花をリビングに飾ることで居心地の良い空間作りに努めている。	共用のリビングはコロナ禍もあり、特に換気や清掃を徹底し空調機で調整し快適な環境で過ごせるようにしている。壁には干支の貼り絵や季節の壁画、利用者の書き初め、塗り絵等が飾られ、窓際にソファがあり景色が見渡せるよう工夫した配置となっている。キッチン是对面式で安心感があり、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしながら一人ひとりが過ごしやすい居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂きながら、本人様の使い慣れた家具等を用意していただいたり、身体の状態に合わせた配置を行い居心地良く過ごせるよう配置している。	居室は電動ベット・クローゼット・洗面台・エアコンを設置し、持ち込まれたものは入居時に家族と一緒に考慮した配置となっている。寝具類・テレビ・ラジオ・時計・仏壇・位牌・遺影などがあり、家族写真やお祝いの創作品が飾られている。ホームから贈られた手作りランチョンマットがあり、安全で居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいように居室のドアの目印やトイレの表示をしている。廊下やトイレに手すりが設置されている。玄関横で外履きに履き替えられるようにベンチを設置している。トイレは自動で点灯消滅する。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

